

新しいタイプの  
指導者を迎える世界

ランデス ハル

最近多数の国でこれまでとは違ったタイプの政権交代があったり、今年はその実現しそうに思われている事例がいくつか見受けられます。

私たちの隣国ではどんな政権交代が実現するのか不明ですが、世界最長在位を誇った王位は、皇太子により継承されました。ところが西欧の有力な諸国では極右政党や非伝統的なタイプの政権交代が実現したり、そのように予想される複数のケースがあります。それでも最も注目されたのは米国での新大統領の誕生でした。

ところで 20 世紀における原子力の出現は、それを武器として使用することで戦争を収めた米国に、世界大戦の再発をなんとしても防止せねばならないとの覚悟とその対策を迫った、と思われまます。

第一次世界大戦時の勝者による懲罰主義的な戦後処理の失敗を教訓として、諸国間の経済協力と、自由な貿易を促す機構を作り上げるのに、米国はリーダーシップをとったのでした。このメカニズムは戦後の復興に留まらず、民主主義と自由経済の市場原理を活かして、最近に至るまで資本主義圏での未曾有の経済繁栄を実現したのです。

しかし昨今登場する元首の新しいスタイルは、戦後の繁栄のメカニズムに機能不全が生じたことを示しているように見えます。

例えば繁栄から生まれた億方長者が、自発的であれ課税によってであれ、その富の一部を人々と分かち合うことをせず、自分たちのものと見なしてしまったために、機能不全は起こったのです。累進課税や社会保障の制度が不備な所では、状況は深刻となり、戦後の理念も失われていくのです。

T 氏はアメリカ第一主義を主張して、西欧ではポピュリストたちが支援者を集めました。社会からの置き去りを自覚した人々は、T 氏の現状否定の言葉に魅せられたのです。やがて、仕事を奪う難民の流入を拒むようになるのです。

さて日本でも同様なことが起こるのでしょうか。高い支持率と圧倒的多数の議席をもつ現政権が海外で出現したようなタイプの競争者によって、近く代えられるとは考えにくいことです。

とはいえ、かの機能不全はこの国でも確実に進行しています。かつて世界に誇った平等な社会は見る影もなく、経済格差は明らかに拡大しています。そしてヘイトスピーチに見る排他主義や結婚とか家族についての画一的な考え方が入り込んできています。

戦後の復興とその後の経済の発展は前述したように、ある種の理念に支えられてきたと考えます。絶対的な破壊力をもつ物体の前で、戦争をしない決心を迫られたからです。日本ではその壊滅的な威力を知らされた者として、平和憲法を大切にしてきました。

T氏の唱える米国優先主義の下で日米同盟が吟味される時には、重大な論点が検証されることになるでしょう。

今年も神様に力をいただきながら、YWCAとしての務めを果たさせていきたいと思います。